

市民と野党の共闘で政治
を変えよう。憲法、くらし、
平和を大切にする都政を

都民がつくる革新都政

発行：革新都政をつくる会
発行人・中山 伸
〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10
東京労働会館5F 電話 (5978) 4031
HP:https://www.kakushintosei.net
E-mail: info@kakushintosei.org
(1部 25円、送料は別途)

2025年度定期総会

新たな国民的共同と都政転換を

12月4日、革新都政をつくる会 2025年度総会が開催されました。第1部ではつくる会顧問でもある小池晃日本共産党中央委員会書記局長が「政局報告」と題して、7月の参院選後の政局、とりわけ戦後最悪の高市自・維連立政権誕生のもとでの国会での動きについて報告。中山伸事務局長が2025年度の活動総括と2026年度の活動方針、決算・予算案、新役員体制について提案。満場一致で採択されました。



日本共産党里吉ゆみ都議が 連帯の挨拶

連帯の挨拶に立った里吉ゆみ都議会議員(世田谷区選出)は、2日に開会された都議会に小池都知事が提案した補正予算案について、「やっぱり物価高がつづかなかで、そして住宅の高騰もつづかなかで、東京都民の生活、本当に厳しいと、ここに対する支援をどうするかというのが引きつづき都政の大問題です」、「ところが、小池知事の所信表明を聞きましたけれども、小池百合子都知事の頭のなかはですね、経済成長や都市活動が都政の主役で中心で、東京に住む人々は経済成長のための人材ということしか見ていないのじゃないか」と厳しく批判。小池都政転換に全力を上げると挨拶しました。



小池氏ははじめに、7月の参院選で自民党政治に国民のノーの審判が下って、衆議院でも参議院でも与党が過半数割れしたにもかかわらず、高市政権は自民党の過半数割れの最大の原因である裏金問題に何の反省も見られないこと、所信表明演説で裏金問題にも政治と金の問題に一言も語らなかったこと、物価高で悲鳴が上がっているときに消費税減税に背を向けていること、外国人への差別や排外主義に対抗する姿勢もまったく見られないことを示し、「どういふ問題でも自民党が国民のいるいろいろな今の困難に答えを出せていない状況にある」ことを示しました。

危険な自・維連立政権

こうした下で自民党と連立を組んでいた公明党も離脱して、日本維新の会と組んだが、この連立の条件の衆議院議員の1割削減は完全な思いつきときびしく批判。この比例定数削減は、自民党と維新が連立をくむことで企業団体献金禁止を下ろしてしまつたことの「隠れ」の名目に他ならないこと、また、社会保障の改革をすすめていく前提と

して議員定数削減が突破口だといっている。要は共産党や他のきちんと対決する議席を全部奪つてしまつて維新が言っている改悪路線突きすすもうという企みであることを明らかにしました。

台湾有事ー問題解決の道

さらに小池氏は、自民党維新の会の議員定数削減のやり方がめちゃくちゃで、出してきた法案は1年間で結論が出ない場合は比例を20、小選挙区では25議席を削減するといふものと指摘した上で、日本の衆議院の議員の数は世界と比べて決して多くはないこと、OECD加盟38カ国のうち下から3番目で、日本より少ないのはメキシコとアメリカだけで、しかもこの二つの国は連邦議会で役割は限定されており、世界で一番国会議員数が少ないのは日本だと指摘。国会議員の身を切る改革が必要なら、共産党を除く各党が年計約35億円受け取っている政党助成金の廃止、減額の方が効率的ではないか、と言う東京新聞の社説を紹介しました。

さらに高市首相の台湾有事の際の「存立危機事態」発言について、台湾有事ということが発生したら存立危機事態だとして集団自衛権を行使する。要する日本が攻撃をされてもいらないのに台湾で有事が起きたら日本は戦争をやるんだと言ふことを言った。これは危険極まりない発言で経団連の会長も人の交流も含め対中ビジネスへの影響を憂慮していると言っている。

都民置き去りの補正予算案

東京都が第4回定例会に物価対策を内容とした補正予算案を提出しました。予算の規模は一般会計1722億円、公営企業会計2億円の1724億円で、「都民・都内事業者の負担を軽減する取組」として、都民に対する予算、中小企業の賃上げ・生産性向上に資する取組、特別区分の重点支援地方交付金(国交付金)の3本の柱で構成されています。

小池都知事は、記者会見でこの補正予算案について、「長期化しております物価高騰の影響から、都民・事業者を守り抜く」予算であると自賛しましたが、実際は国の補正予算への対応が基本で、都の支出はわずかに予算の3割にすぎません。しかも、その都費も2024年度の繰越し金を充てたに過ぎず、9兆円を超える予算を誇り、2兆3157億円(借金返済のため減債基金を除く)ものため込みをしている東京都の財政力を考えるならば、

新たな国民的共同の呼びかけ
日本共産党は暮らし、平和、民主主義をより発展させる新しい国民的民主的共同を呼びかけていることを紹介。消費税減税や労働問題などを暮らしの問題にとりくんでいくことを報告しました。

最後に、いま、極右ブロック、反動ブロックの危険が高まっていることを指摘するとともに、各分野でのたたかいが広がっていることを紹介し、このたたかいを広げて、政治のゆがみを正面からたたきて、戦争の道を止めるために全力を尽くしたいと決意を表明しました。

都議会第1回定例会
開会前宣伝行動
2月17日(火) 17:15~
都庁都民広場横
開会2月18日(水)~
閉会3月27日(金) 予定

青い空
今年(戦後八〇年)ということもあり、いままで以上にテレビ・ラジオで戦争と平和をテーマにした番組が放送された。二度と戦争をしてはならないとの想いをあらためて強くした方も多いのではないかと▼日本の侵略戦争によってアジア・太平洋地域の人口二〇〇万人以上と日本国民三〇〇万人以上の命が奪われた歴史を忘れてはならない▼BSフジの「プライムニュース」に出演した笑点でお馴染み落語家の林家木久扇(初代木久蔵)は、小学校一年の時に終戦を迎えた。番組では一九四五年三月一〇日の東京大空襲について「私の家も爆弾が落ちた」と体験を語った▼キャスターから「平和というものを守るためには何が必要なんですか」と聞かれ、木久扇は「平和」とも、自分の国の国力が税金を上げて新しい兵器とか、兵士を募集して国を強くするという競争をしていいたら、戦争はいつまでもなくなりませんよ」と指摘した。政治の責任は大きい▼高市政権が誕生、その反動的危険があらわになっている。暴走政治を阻止し、国民の暮らしと平和、民主主義、人権を守る首都東京でたたかいたいがあります重要となっている。(か)

革新都政をつくる会 2025年度定期総会決定

はじめに

長期にわたるロシア・プーチン政権による国連憲章違反のウクライナ侵略、イスラエルによるガザ地区でのジェノサイド、さらには際限のない軍拡競争など世界平和に逆行する危険な動きが加速する歴史の岐路ともいえる激動の情勢のもと、都政の転換と都民のいのち、くらし、平和、民主主義を守る奮闘に心より敬意を表します。

2025年は6月の都議会議員選挙、7月の参議院議員選挙と国政、都政の未来が問われる重大な選挙が連続してたたかわれ、いずれの選挙でも昨年の総選挙にひきつづき、戦争をする国づくり、生活破壊、金権政治を押しすすめる自民党政治に厳しい審判が下されました。同時に、憲法不忠、排外主義の反動ブロックの形成の動きの台頭とともに、改憲・大軍拡、生活破壊の高市自民・維新が発足させられました。一方、都政において

も自民党・公明党の大後退のもとで小池都知事は東京大改造・財界ファースト・都民置き去りの都政を爆走しています。

こうした情勢のもとで国政における反動ブロックの形成と歴史の逆流をゆるさないたたかいに総力をあげるとともに、都民要求を大きく結果し小池都政の悪政と厳しく対決するためのあらたなたたかいを発展させることが強く求められており、革新都政をつくる会の果たす役割はきわめて重要になっています。

今総会において、以下の点について、議論し意思統一をはかります。

①憲法を守り、高市政権・反動ブロック形成を阻止するたたかい



②財界ファースト、都民置き去り
小池都政の転換のたたかい

③市民と野党の共闘の発展
1. 戦後最悪の自民・維新高市政権・反動ブロックと対決し、暗黒政治を許さぬたたかいに総決起しよう

7月にたたかわれた参議院議員選挙においても自民党は前回議席から24議席減となり非改選と合わせた自公政権与党は少数与党に転落、あらためて国民不在の自民党政治に対する国民的怒りと不信が示されることとなりました。同時に、自民党政治の補完勢力・国民民主党が外国人の排斥や差別を声高にまき散らし、新憲法のもと国民が築き上げてきた民主主義を根底から覆し、戦前への回帰を目標とむ極右勢力が台頭の兆しを示したこと、さらに自民、維新の会、国民民主党、参政党などによる「反動ブロック」が形成される危険など、日本の平和、民主主義、国民主権のうえから重大な局面を迎えるに至っています。

この今年度中の達成、「戦争国家」づくりの指針となつてくる安保3文書の改定を2026年度末までに前倒しすると表明。経済政策では、「アベノミクス」の復活を宣言、社会保障に大なたをふるうとともに、高市首相は、「台湾有事」は日本が集団的自衛権を行使し、米国とともに中国への武力行使が可能になる「存立危機事態」に該当すると答弁。非核三原則の改定の意向も隠さず、くわえて、この間の選挙で示された裏金問題についてもほかむりをつづけています。



いま、あらゆる分野での国民との矛盾が広がり、危険な高市政権の登場に危惧を持つ人々が声を上げ、行動に立ち上がっています。

改憲、大軍拡阻止！人権、民主主義を守れ！物価高騰に対する経済政策、消費税減税、介護・医療破壊許すな、など要求実現の運動をおこし、高市政権と対決し、あらゆる各界・分野で新たな共同を進展させ、高市政権を追い込み、この政権を最後の自民党政権にしていこうではありませんか。

2. 財界ファースト・都民置き去りやめさせ、都民が主人公の都政実現を

3. 財界ファースト・都民置き去りを加速させる小池都政



新たな国民的共同で反動ブロック打破、 改憲・大軍拡・生活破壊阻止！

財界ファースト・都民置き去り小池都政の転換を！

た。まさに逆立ち都政と言わざるを得ません。

さらに小池都知事は9・1関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典への追悼文について今年も拒否。8月末にイギリスの航空母艦が「軍事訓練」の一環として東京湾に停泊した問題について、「国際親善」が目的だったと虚偽の答弁をおこなった態度は、「戦争する国づくり」を標榜する高市政権に連動する危険な言動に他なりません。

議会も小池都政与党会派は、財界ファースト、都民置き去りの都政を批判することなく、物価高騰に困窮する都民に背を向け続けたのです。また日本共産党都議団が「政治資金パーティーを自主的に禁止する決議」を提案しましたが採決に至らず。反対した会派の姿勢が厳しく問われます。

(3) 政治を変えよう！市民と野党の共闘のたたかい

2020年都知事選、つづく都議会議員選挙、区市長選挙、都議補選等と発展してきた東京における「市民と野党の共闘」は、2024年都知事選挙で1人スタンディングなど「新たな民主主義」を広げました。全都各地の「市民と野党の共闘・市民連合」などは、日本と東京の将来を左右し、都民・国民のくらしに大きな影響をおよぼす都議会議員選挙、参議院選挙に草の根から攻勢的にとりくみを展

開しました。

さらに「市民と野党の共闘」で都政転換を「めざす呼びかけ人会議」は、都議選を迎え、2024年都知事選総括を踏まえ、市民と野党の共闘による都政転換をめざす恒常的な取り組みを位置づけ、情勢と各地の取り組みの交流を行い、都民の目線で小池都政の現地を視察する「3・8東京大改造ウオッチングバスツアー」の実施、都議会傍聴を呼びかけるなど、都政をわがこととしてとらえる活動を進め、都議選と参院選を市民と野党の共闘で攻勢的に取り組むことを確認し、「5・28呼びかけ人会議」を開催。6・2都議会開会日には「金権政治にNO！裏金自民党都議さよならアクション」が展開され、11月には「戦争終結80年 砂川闘争70年 米軍基地と平和のたたかい・都政ウオッチングバスツアー」を実施するなど、次期都知事選挙に向けたとりくみをすすめています。

また、革新都政をつくる会は、都議選を小池都政転換の重要なたたかいとして位置づけ、「5・8政治を変えよう！政治を都民の手にとりもどそう！」都政学習会を中野ゼロ小ホールで開催するなど、呼びかけ人会議と連携したとりくみを展開しました。

(4) 都政を都民の手に！広がる新たな国民的共同の発展を！

都民のいのちとくらしを守る要求は、極めて切実です。革新都政をつくる会も参加している都民生活要求大行動実行委員会は2026年度予算について14分野476項目の要望書を提出し、都の回答を受け10月要請行動をおこないました。また、都民要求実現全都連

絡会・東京社保協・東京地評の3団体は都議会定例会開会日行動を行い、広範な都民要求を結集し、その実現を求めています。

都民の声を聞かない小池都政に抗して、都団体や広範な市民が要求実現、都政の転換を求めてかちあがっています。異常な物価高騰対策、賃金・雇用対策、少人数学級と教職員の増員、学校統廃合反対、保育所待機児解消、住まいの確保、一人親家庭や若年層の貧困の解消、介護難民の解消、高すぎる国民健康保険料(税)、後期高齢者医療保険料(税)の引き下げ、公的医療機関の拡充と保健所の拡充など公衆衛生の確立、中小業者への支援、首都直下地震と異常気象災害への備え、地球温暖化対策、横田米軍基地の返還とオスプレイの撤去、平和祈念館(仮称)の建設、ジェンダー平等の推進などの切実な要求・課題を掲げて活発に運動を展開しています。

都政の重要問題となっている神宮外苑再開発問題、PFAS汚染問題、高校入試英語スピーキングテスト問題、都立・公称病院独法化夜間定時制高校つぶしなどに対して広範な都政批判の世論がさらに広がっています。

また、日本橋や築地市場跡地、新宿駅前などの同時多発的な超高層ビル再開発、羽田国際空港の都心低空飛行、外かく環状道路と特定整備路線建設、横田基地オスプレイ配備、さらには、カジノ誘致など小池都知事がすすめる財界・大企業奉仕の悪政に対する都民の運動はかつてなく広範な広がりを示しています。

3. 都政転換のとりくみの恒常化と組織の確立

1. 都政転換のとりくみの恒常化

(1) 小池都政の批判・告発、都政転換をめざす活動の推進

○都政学習会を定期的に開催します。これまでの都政学習会を発展させ、新しい共同を追求し、多彩な活動・研究者との結びつきを広げ、都政を身近なものとして学び、革新都政をつくる会の存在を発信する場として提供します。

○都政分析と政策提言、都民要求実現の取り組みを諸団体と連携して進めます。

○都知事に「2026年度東京都予算及び都政運営に対する要望書」を提出し、実現をめざします。

○都議会定例会前宣伝を実施し、各団体の要求と結んだ小池都政告発の都民宣伝を継続してすすめます。

○ホームページの改善、SNSの活用など都知事選とその後活動の経緯を生かし、専門家の協力を得て宣伝、政策などの活動を積極的に発信していきます。

(2) 生活防衛、切実な都民要求の実現をめざす活動の推進

貧困と格差の打開、くらしを守り、都民要求実現、都政転換に向けた都民連、諸団体、各地域の要求行動と連携した広範な共同をすすめます。

(3) 市民と野党の共闘の発展、あらゆる国民的共同の前進を

○「市民と野党の共闘で都政転換を」めざす呼びかけ人会議・ネットワークとの連携を強め、小池都政転換をめざす活動の恒常化をすすめます。

○国政における反動ブロックの形成、改憲、大軍拡、生活破壊を阻止するあらゆる国民的共同を追求します。人権と民主主義を守る社会的連帯の場を広げます。

2. 体制と財政の確立

(1) 体制の強化

・代表世話人会、事務局、委員会への女性の積極的参加、世代交代をはかるとりくみを代表世話人会を中心とすすめます。

・地域、職場、団体での革新都政をつくる会の確立、再建を推進します。

・サポーター制度を導入します。

(2) 機関紙「都民がつくる革新都政」

引きつづき魅力ある紙面づくりに努めるとともに、講読団体、ニュース読者の拡大に努めます。

(3) 財政の確立

・団体、地域での革新都政をつくる会の活動をすすめるため財政基盤の強化を図るための募金をすすめます。

以上

新役員体制 《代表世話人》

阿久津 豊	東京都生活と健康を守る会連合会
井澤 智	東京地方労働組合評議会
加藤 裕子	東京都教職員組合
佐久間 千絵	新日本婦人の会東京都本部
武田 武	東京商工団体連合会
田辺 良彦	日本共産党東京都委員会
窪田 一忠	革新都政をつくる三多摩の会
西坂 昌美	東京民主医療機関連合会
佐々木 平	日本民主青年同盟東京都委員会
滝沢 香	自由法曹団東京支部
藤田 洋一郎	文化団体連絡会議
矢吹 義則	東京自治体労働組合総連合
中山 伸	事務局長(東京都教職員組合)

<会計監査> 木原 秀子 東京母親大会連絡会



戦後80年、砂川闘争70年米軍基地と平和のたたかい 都政ウオッチングバスツアー



米軍横田基地をバックに

「市民と野党の共闘で都政転換を」めざす呼びかけ人会議は11月15日、3月の東京大改造ウオッチングツアーにつづく第2回目のウオッチングバスツアー「戦後80年 砂川闘争70年 米軍基地と平和のたたかい都政ウオッチングツアー」を開催しました。

行程は①東京・都心のど真ん中に居すわる在日米軍の赤坂プレスセンター（麻布ヘリポート）、②歴史的な在日米軍立川基地拡張延長反対闘争がたたかわれた砂川現地、③在日米軍司令部が置かれ、殴り込み部隊海兵隊が使用する特殊作戦機オスプレーが配備されている横田基地。また、ツアーは東京平和委員会の岸本正人事務局長の案内ですすめられ、最後に「横田基地撤去を求める西多摩の会」の窪田一忠事務局長から地元での米軍横田基地の撤去を求めるたたかひの報告を受けました。

呼びかけ人会議が平和バスツアーを開催

たたかいと連帯の発言

総会には全都から32団体、6地域から50名の代表が出席しました。討論では12団体・地域が発言に立ち、各分野の運動や小池都政に対する対都闘争など、生き生きとした報告がつづきました。

東京自治労連

「いのちと平和、くらしを守る自治の力、東京から公共を再生する」をテーマに12月21日に第15回東京地方自治研究会を開催します。小池都政のもとで進められてきた大規模再開発、DX、民営化などにより、住民生活に重大な影響を及ぼし、住民の命と暮らしを守るために日夜奮闘する職員の労働環境は、多様化する業務や人員不足により厳しさを増しています。私たち自治体労働者が職場から公共の在り方を問い直し、住民とともに連帯実践する出発点として、多くのみなさんの参加を呼びかけています。

都立病院を充実させる会

都立病院が独立法人化されて3年余が経ちました。現在、工事期間中の休止病棟も含めて約900

床が動いていません。看護師は必要人数で700人ほどが足りない。職員の確保が難しく非正規職員が増加。さまざまな雇用形態でチーム医療が困難になっています。コロナ禍で都立病院が果たした役割を思い出して欲しい。都直営に戻すことを強く求め運動をすすめます。

民青同盟東京都委員会

青年は、自分たちの暮らしや平和の要求との関係で、今の政治のままではないのか考えを深めてきています。今年の都議選、参議院選で自民党から離れた青年の票の相当数が参政党や国民民主党に流れてしまったのは、くらしや学費を何とかしてほしいとの願いが、目に入ってきた新しい勢力への期待と結びついているという実態です。高市政権の本質を多くの青年が気づいたときに、自民党政権は一気に終わりに近づきます。青年の取り組みを

文化団体連絡会議

スパイ防止法反対と衆議院比例代表の定数削減に反対する声明を発表しました。文化は社会の鏡であり、民主主義の根幹です。文化団体として小さな声もしっかりと発信し、誰もが表現、参加し、考える社会を守るために取り組みをつづけます。都政の革新を前進させ、文化の力が生きる東京を。東京にてニューヨークのような骨のある知事を。スウェーデンと並ぶ規模のこの街に。

国民救援会東京都本部

冤罪事件での無罪勝利へのご支援ありがとうございます。再審の法改正へのご協力を引き続きお願いします。11月にスパイ防止法反対の声明を提出しました。宣伝していると「反対だがスパイ防止はあってもいいのでは」という意見がだされます。この法律の危険性、その監視する側が公安警察を中心としていることなどもっと伝え、広げやすいネーミングを一緒に考えたい。

東京憲法会議

参議院選挙後の国会の憲法審査会は、改憲派が77.7%と選挙前は68%だったので一気に増える状況になりました。また9条2項削除という問題が急浮上している。自民党は憲法改正についての起草委員会の設置も提案しようとしています。憲法東京共同センターの憲法審査会の傍聴を強めます。首長9条の会は、いま日本を戦争にする国にしないために自治体と市民は何ができるかで総会を開催します。

東京母親大会連絡会

日本母親大会の東京開催、成功への協力、ありがとうございます。大会では、革新都政が都民をあげての運動で都民中心の命と暮らしを



守る施策が実現したことを伝えたいと思い、障害児全真就学、老人医療費の無償化など全国に先駆けて運動してきたこと紹介した。そして、若い人たちの平和運動も伝え、その財産を次につなげたいと思います。2月1日には、東京母親大会を行います。

東京都生活と健康を守る会連合会

東京都は都民を守っているか、小池知事は「稼げない人は東京から出て行け」と言わんばかり。都営住宅は新規に1棟もつくられていない。今のままでは東京に住みつづける場所がない。長年暮らしていたところに住みつづけれない状況になっていく。私たちはそれを変えていくとよびかけています。力を結集しましょう。

自由法曹団東京支部

いま、差別や排外主義、軍国主義が日本の経済を壊し、国民の生活の困窮を招いているのではないか。

参議院選挙や高市政権の台頭に

よって、外国人差別を助長するような標語が全国各地で叫ばれ、事実のもとつけない差別発言がおこなわれています。差別を許さない、人権を尊重する憲法を生かした政治への取り組みを広げていきたい。

東京都教職員組合

子どもたちの安全と、誰もが安心して学べる教育条件の保障を求めます。教職員不足による未配置が深刻な状況です。教職員の基準定数を増やし、ゆとりのある配置をおこない、長時間過密労働を解消することが必要です。全学年30人以下の少人数学級実現へ、みなさんとともに教育を守る取り組みに力を尽くします。

東京都高齢期運動連絡会

本日、厚生労働省前で高齢者の命と暮らしを守る2026年度予算要求の座り込みをおこなってまいりました。今年も年金者組合と共同で行いました。後期高齢者の来年度以降の保険料も重大です。大きな値上げの試算も出ています。都政は私たちの立場に立つてもらいたいです。

革新都政をつくる

三多摩連絡会

小池都政をどうしたら変えられるかというのをずっと考え、取り組んできた。毎月常任会議をやり、毎年学習交流会を実施しています。その中から、多摩地区の保健所増設を求める会、公共交通の充実を求める三多摩ネットワークなどの地域からの要求が運動になっていきます。要求と学習をすすめて、小池都政を変えましょう。

開会挨拶

矢吹義則代表世話人



しっかりと人権を守る、憲法、地方自治を守る。こうしたことを前面に出しながら、いま、都民生活が一番苦しいもとに置かれているなかで、どう国政都政があるべきなのか、どう声をに出していく。首都東京で精一杯、都民の願いを実現できるように、それぞれ参加団体のみなさんがさまざまな課題を持ち寄って、克服していくことをあらためて訴えます。

閉会挨拶

西坂昌美代表世話人



革新都政をつくる会は再来年には前身を含めると60年という歴史をもった会です。そういう歴史をふまえてたまたかかっていくことが大事だと思います。ニューヨークで民主社会主義者のナギノニさんが新市長となりました。ニューヨークで起こった出来事は、東京でもう60年前に実現していたということ、再び、革新都政をつくることは必ずできると確信して力をあわせて頑張りたい。